



環境省

パネルディスカッション

自然関連財務情報開示のためのワークショップ《アドバンス編》
第1回 ライフサイクル全体を通じた自然との関わりの評価・分析①

2023年11月29日



話題提供1：エコロジカル・フットプリントはTNFDの目的であるネイチャーポジティブにどのように貢献するのか（生物多様性におけるEFの役割）

生物多様性におけるエコロジカル・フットプリントの役割

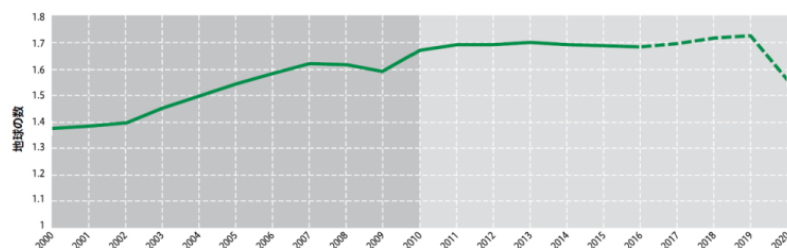
人の暮らしやビジネスは自然資源なくしては成り立たないことを数値化

愛知目標4

「持続可能な生産と消費 - 安全な範囲内」



図4.1 エコロジカル・フットプリントの傾向



2017年から2020年までのデータは、予備情報に基づく予想である。

(出典：生物多様性事務局,2021,『地球規模生物多様性概況第5版』)

生物多様性の経済学：ダスグプタ・レビュー(2021)

- ①人間の需要が地球の供給能力を上回らない
- ②経済的成功の基準を変化させる
- ③金融と教育のシステムを変革する



Convention on Biological Diversity

昆明・モントリオール
生物多様性枠組

ネイチャーポジティブ

社会変革 - 持続可能な生産と消費

ターゲット15：ビジネスの情報開示

具体的な方法のひとつにTNFD

ターゲット16：消費のグローバルフットプリント削減

コンポーネント指標のひとつにエコロジカル・フットプリント

話題提供2：エコロジカル・フットプリントはLEAPのどの質問項目とより関連性が深いのか？



スコージング

作業の仮説を立てる

目標とリソースの調整

発見する(Locate)	診断する(Evaluate)	評価する(Assess)	準備する(Prepare)
L1 ビジネスモデルとバリューチェーンの範囲	E1 環境資産、生態系サービスとインパクトドライバーの特定	A1 リスクと機会の特定	P1 戦略とリソース配分計画
L2 依存関係とインパクトのスクリーニング	E2 依存関係とインパクトの特定	A2 既存リスクの軽減とリスクと機会の管理の調整	P2 ターゲット設定およびパフォーマンス管理
L3 自然との接点	E3 依存関係とインパクトの測定	A3 リスクと機会の測定と優先順位付け	P3 報告
L4 インパクトを受けやすい地域との接点	E4 重要性のインパクト評価	A4 リスクと機会の重要性の評価	P4 公表

LEAPを実施する上でサポートとなるTNFDの開示提言

戦略D

戦略A
戦略D
リスクとインパクトの管理A (iおよびii)
リスクとインパクトの管理B
測定指標とターゲットB

戦略A
戦略C
戦略D
リスクとインパクトの管理A (iおよびii)
リスクとインパクトの管理B
リスクとインパクトの管理C
測定指標とターゲットA
測定指標とターゲットB

ガバナンスA
ガバナンスB
ガバナンスC
戦略B
戦略C
測定指標とターゲットC

話題提供3：エコロジカル・フットプリントを生物多様性の取組・戦略にどのように活かすか？



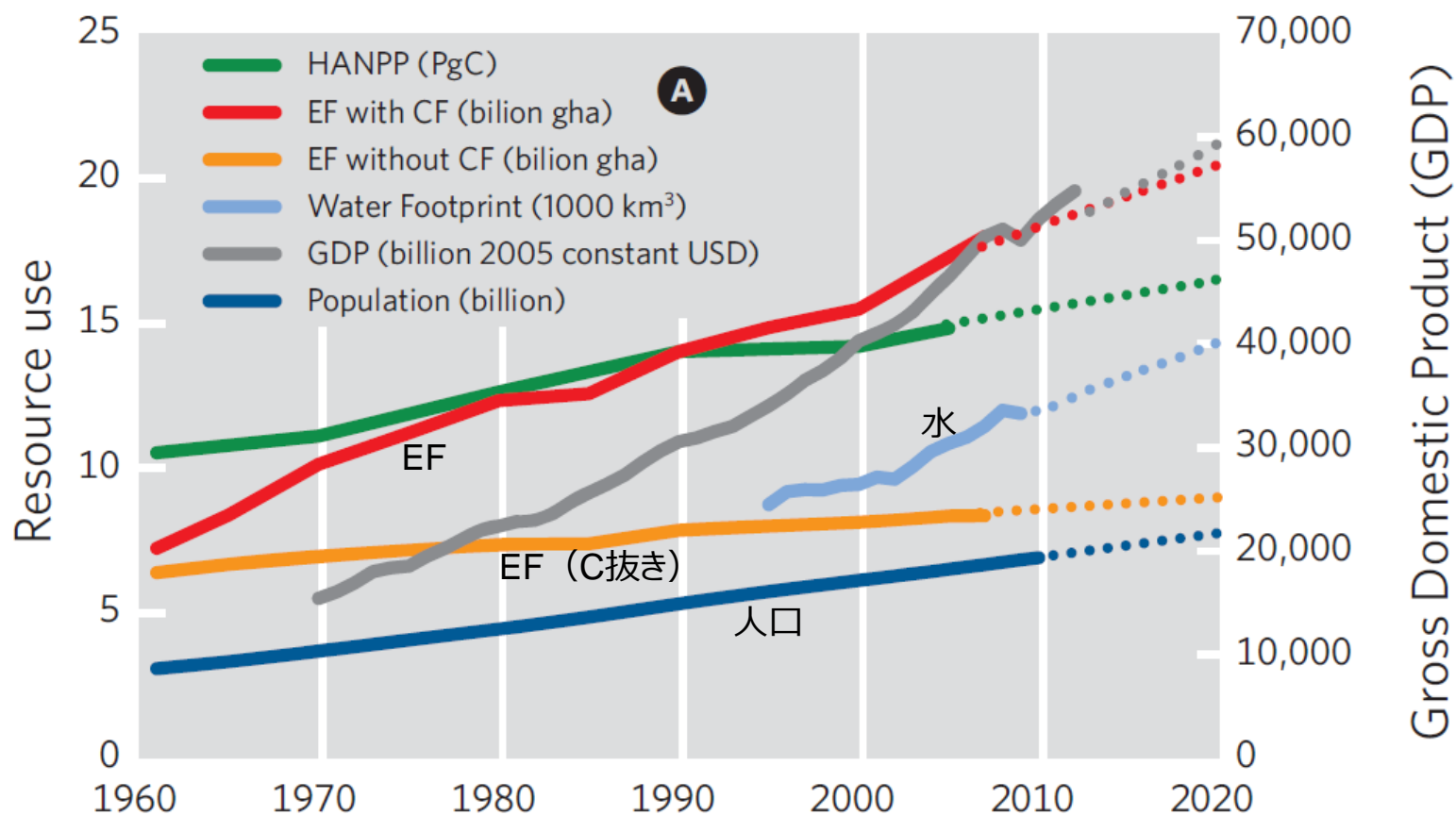
■ エコロジカルフットプリントの活用例：過去から現在まで、世界機関・国・自治体・企業でエコロジカルフットプリントを活用した、負荷評価、目標設定が行われている。

- 1996年 国・自治体/環境省「平成8年版環境白書」で、初めてエコロジカル・フットプリント（EF）を紹介
- 2000年 国・自治体/『東京都環境白書2000』
- 2003年 国・自治体/国土交通省が、全国及び47都道府県についてEFを算出し。
- 2006年 国・自治体/環境省『環境基本計画』の参考指標のひとつにフットプリントを採用。
- 2007年
 - ・企業/WBCSD(持続可能な開発のための世界経済人会議)は、ビジョン2050の中で、EFを紹介。
- 2012年
 - ・国・自治体/東京都の『緑施策の新展開:生物多様性の保全に向けた基本戦略』で、EFを提示。
 - ・企業/花王は日本LCA学会で、環境会計の計算法としてEF分析を発表した。
 - ・国・自治体/環境省『生物多様性国家戦略2012-2020』でEFが紹介される。
- 2014年
 - ・国・自治体/環境省『生物多様性地域戦略策定の手引き』でEFが紹介される。
 - ・企業・NGO/富士通株式会社とWWF ジャパンは共同で、電子版環境教育教材を作成。
 - ・企業・NGO/第一三共が生物多様性を含む環境負荷の指標として、EFを活用
- 2015年 UNEP Global Biodiversity Outlook(GBO 4)において、愛知目標4のモニタリングにEF（カーボン有りと無し）を活用
- 2016年 国・自治体/環境省「生物多様性と生態系サービスの総合評価（JBO2）」で、EFを活用
- 2020年 UNEP GBO 5 において、愛知目標4のモニタリングにEFを活用
- 2021年 企業・NGO/MRIが50年後の2070年に向けたEFシナリオ・モデルをGFNと共同で開発
- 2022年
 - ・企業・NGO/第一三共グループがEFの経年変化を環境データブック2022で記載
 - ・CBD COP15におけるモニタリング指標（コンポーネント指標、補助指標）としてEFを検討
- 2023年 企業・NGO/富士通グループがEFを活用した独自指標で、2030年の目標を策定

GB04 目標 4 持続可能な生産と消費 Sustainable production and consumption



- 世界の生物多様性の状況について取りまとめたGlobal Biodiversity Outlook 4（2015年）において、愛知目標4の持続可能な生産と消費のモニタリングにエコロジカル・フットプリント関係指標が活用
- 過去の動向、現在の状況、将来の見通しとしてグラフ化
- 人口、GDPの増加に伴い、エコロジカル・フットプリント、カーボンフットプリント、ウォーター・フットプリントも増加

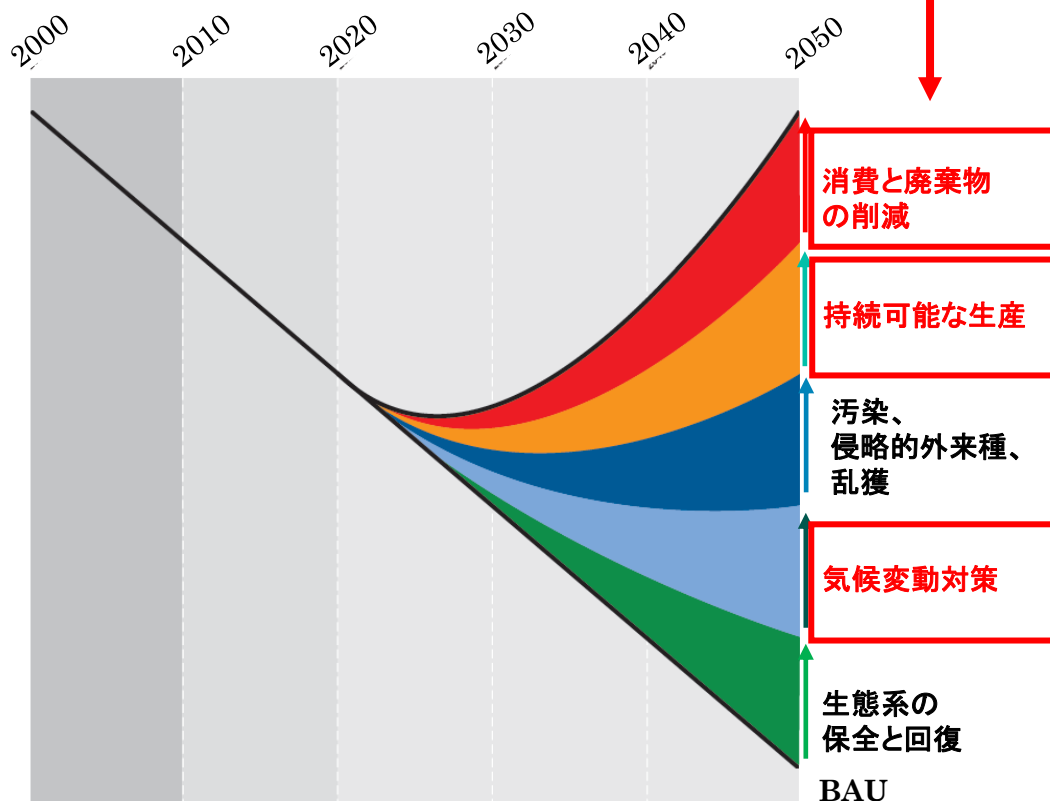


生物多様性に配慮したビジネスの具体的な活動とエコロジカル・フットプリントの活用

■ 生物多様性に配慮した活動

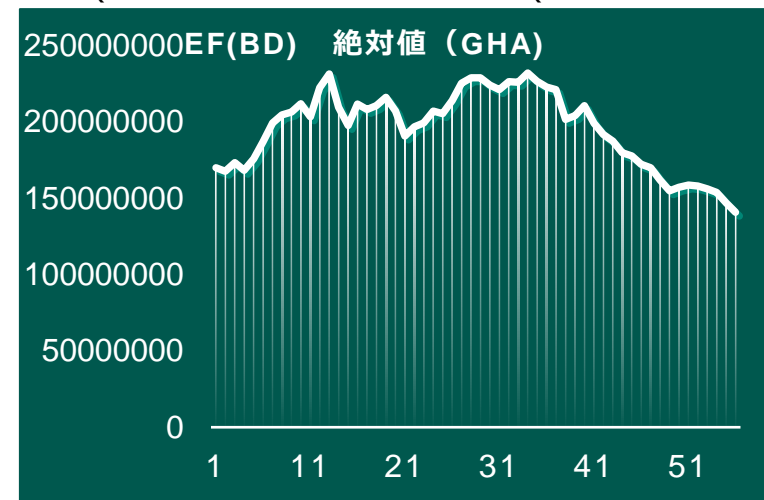
- (1) 自らの事業活動における負荷の削減 (サプライチェーン、バリューチェーンを含む)
資源使用効率の向上、負荷の大きな資源から小さな資源への変換
- (2) 1次産業～3次産業における負荷削減に資する技術、製品・サービスの提供

エコロジカル・フットプリントで評価可能なおおよその分野



日本の負荷削減

EF(エコロジカル・フットプリント) (BD(生物多様性))



- (1) 生産性・資源利用効率の向上
 - ・経営方式のスマート化、デジタル化
 - ・消費と生産の適正化による無駄な廃棄の削減
- (2) 企業、家庭における食品、自然資源利用効率の向上と無駄な消費の削減
 - ・生物多様性配慮製品の環境ラベル化の促進
- (3) 生産から消費における情報の見えるかによる無駄の削減
- (4) ペーパーレス化の更なる強化
- (5) 自然資源のリユース、リサイクル、リデュースの強化
- (6) 負荷の大きな資源から負荷の小さな資源への変換

生物多様性の損失を減らし、回復させる行動の内訳

地球規模生物多様性概況第5版 GBO5 (生物多様性条約事務局2020年9月)